

(1) 推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦）における調査書点について

- 推薦入試（一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦）では、観点別学習状況の評価（全 27 観点）又は評定（9 教科）のうち、どちらか一方を調査書点として点数化します。

以下の東京太郎さんの例で調査書点の点数化について説明します。

（例）東京太郎さんの各教科の観点別学習状況の評価及び評定

教科	国語			社会			数学			理科			音楽		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別学習状況	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
評価	B	A	A	A	A	A	B	C	B	B	B	B	B	A	B
評定	4			5			2			3			3		

① 各学校の求める生徒の姿に応じて、観点別学習状況の評価を調査書点として点数化する学校の場合

- ・9教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語（英語））の全 27 観点の評価（A・B・C）を点数化します。
- ・各教科の特定の観点を重視する学校（都立A高校）や、特定の教科を重視する学校（都立B高校）があります。

【都立A高校】

- 観点別学習状況のうち、「主体的に学習に取り組む態度」を重視する学校
- 調査書点の満点が 180 点

教科名	国語			社会			数学			理科			音楽			
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	
都立A高校の配点	A	5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10
	B	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

▶ 「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」180点を「調査書点の満点」180点に比例換算します。

【都立B高校】

- 数学、理科、美術、技術・家庭の教科を重視する学校
- 調査書点の満点が 390 点

教科名	国語			社会			数学			理科			音楽			
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	
都立B高校の配点	A	5	5	5	5	5	5	10	10	10	10	10	10	5	5	5
	B	3	3	3	3	3	3	7	7	7	7	7	7	3	3	3
	C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

▶ 「A」の配点を合計した「評価の得点の満点」195点を「調査書点の満点」390点に比例換算します。

② 評定を調査書点として点数化する学校（都立C高校）の場合

- ・9教科の評定を点数化します。各教科に傾斜配点を設けません。

【都立C高校】

- 調査書点の満点が 450 点の場合

▶ 調査書点は、 $450 \text{ 点} \times 33 \text{ 点} \div 45 \text{ 点} = 330 \text{ 点}$ となります。

各学校が調査書点を点数化するとき、観点別学習状況の評価と評定のうち、どちらを活用するかと、各学校が定める調査書点の満点が何点になるかについては、11月上旬に発行予定の「令和4年度東京都立高等学校募集案内」に明示します。

美術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
B	A	B	A	A	A	A	B	B	A	A	A
3			5			3			5		

- 各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価したもの
- A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C: 「努力を要する」状況と判断されるもの

〈重視する観点〉 A:10点 B:3点 C:1点 〈その他の観点〉 A:5点 B:3点 C:1点

美術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)			評価の得点の満点	調査書点の満点
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III		
5	5	10	5	5	10	5	5	10	5	5	10	180	180
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

「都立A高校」を受検する場合の調査書点
127点

▶ 東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した127点となるので、調査書点は、 $180 \text{点} \times 127 \text{点} \div 180 \text{点} = 127 \text{点}$ となります。

〈重視する教科の観点〉 A:10点 B:7点 C:1点 〈その他の教科の観点〉 A:5点 B:3点 C:1点

美術			保健体育			技術・家庭			外国語(英語)			評価の得点の満点	調査書点の満点
I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III		
10	10	10	5	5	5	10	10	10	5	5	5	195	390
7	7	7	3	3	3	7	7	7	3	3	3		
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

「都立B高校」を受検する場合の調査書点
306点

▶ 東京太郎さんの場合、観点別学習状況の評価の得点は、網掛け部分を合計した153点となるので、調査書点は、 $390 \text{点} \times 153 \text{点} \div 195 \text{点} = 306 \text{点}$ となります。

「都立C高校」を受検する場合の調査書点
330点

(2) 学力検査に基づく入試（第一次募集・第二次募集・分割募集）における調査書点について

- 学力検査に基づく入試では、評定を調査書点として点数化します。
- 調査書点は、次の表のとおり、学力検査を実施する教科の評定を1倍、学力検査を実施しない教科の評定を2倍して、算出します。

学力検査の教科	1倍する教科	2倍する教科	評定の満点
5教科(国・数・英・社・理)の場合	国・数・英・社・理	音・美・保体・技家	65点
3教科(国・数・英)の場合	国・数・英	社・理・音・美・保体・技家	75点

(注)「評定の満点」は、各教科の評定が全て「5」である場合

- 以下の東京花子さんの例で調査書点の点数化について説明します。

(例) 東京花子さんの各教科の評定

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語(英語)
5	4	3	3	3	4	5	3	5

① 学力検査を5教科(国・数・英・社・理)、学力検査の得点と調査書点の比率を「7:3」で実施する学校の場合

総合得点の満点は1000点になるので、学力検査の得点と調査書点の比率が「7:3」の場合、調査書点の満点は300点となります。

- ・学力検査を実施する教科(国・数・英・社・理)の評定の合計は、 $5 + 3 + 5 + 4 + 3 = 20$ 点
- ・学力検査を実施しない教科(音・美・保体・技家)の評定の合計は、 $(3 + 4 + 5 + 3) \times 2 = 30$ 点

これらを足すと、 20 点 + 30 点 = 50 点となります。

このため、東京花子さんの調査書点は、

300 点 \times 50 点 \div 65 点(評定の満点) = 230点となります。※小数点以下切り捨て

② 学力検査を3教科(国・数・英)、学力検査の得点と調査書点の比率を「6:4」で実施する学校の場合

総合得点の満点は1000点になるので、学力検査の得点と調査書点の比率が「6:4」の場合、調査書点の満点は400点となります。

- ・学力検査を実施する教科(国・数・英)の評定の合計は、 $5 + 3 + 5 = 13$ 点
- ・学力検査を実施しない教科(社・理・音・美・保体・技家)の評定の合計は、 $(4 + 3 + 3 + 4 + 5 + 3) \times 2 = 44$ 点

これらを足すと、 13 点 + 44 点 = 57 点となります。

このため、東京花子さんの調査書点は、

400 点 \times 57 点 \div 75 点(評定の満点) = 304点となります。※小数点以下切り捨て

学力検査に基づく入試(第一次募集・第二次募集・分割募集)では、上記のとおり、評定を調査書点として点数化しますが、エンカレッジスクール(48ページ参照)では、各教科の観点別学習状況の評価を用いて調査書点を算出します。